

和歌山県持続性の高い農業生産方式導入指針（追加分）

追－４１ 大豆（露地）

平成２４年３月

和歌山県農林水産部

追－４１ 大豆(露地)

県内の大豆栽培ほ場は、砂丘未熟土、水田転換畑である場合が多く、塩基含量や腐植含量が一般的に低い。高品質安定多収のため、牛ふんオガクズたい肥等の良質有機物の投入により地力を高めることが大切である。

また、病害虫・雑草防除は、耕種的、物理的防除の積極的な導入により、農薬使用回数の削減を図る。

区 分	持続性の高い農業生産方式の内容	使用の目安
たい肥等施用技術	<ul style="list-style-type: none"> ○たい肥等有機質資材施用技術 土壌診断結果に基づいた適切な牛ふんオガクズたい肥(C/N比20以下)の施用を基本とする。 ○緑肥作物利用技術 緑肥を栽培する場合は全量を施肥前にすき込む。 	牛ふんオガクズたい肥 1 t/10a
化学肥料低減技術	<ul style="list-style-type: none"> ○基肥施用では、土壌診断に基づいた肥効調節型肥料の施用を基本とする。 ○有機質肥料を施用する場合、基肥は全層施用、追肥は局所施用とする。 	窒素成分量 8 kg/10a 以下 窒素成分量 10kg/10a 以下
化学農薬低減技術	<ul style="list-style-type: none"> ○マルチ栽培技術 マルチ栽培で雑草防除効果がある。 ○生物農薬利用技術 BT 剤等によるハスモンヨトウなどの鱗翅目害虫の防除に使用する。 ○フェロモン剤利用技術 シロイチモジヨトウの交信攪乱生フェロモン剤を処理する。 	化学農薬散布回数 20 %以上削減
その他の留意技術		